

普及活動情勢報告（令和4年2月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

集落の農地を守り続けていくために ～集落営農組織の法人化に向けた啓発～



説明している様子

1月30日、金上野集会所で、中山間等直接支払交付金の2つの集落協定の集会（金上野集落）に20名が集まり、普及所からは法人化の必要性和管内の事例を説明して、意識啓発を行いました。

参加者から、「実際に活動している法人へ直接話を聞いてみたい。」や「まずはほ場整備について考える必要がある。」との意見が出され、引き続き話し合いを進めていくことになりました。

今後とも関係機関と協力して、農地を守る仕組みづくりを支援していきます。

新規就農支援チーム現地巡回 ～新規就農者の営農状況の確認と助言～



現地確認の様子

1月27日、28日、四万十町の関係機関で構成する新規就農支援チームが現地巡回を行いました。

農業次世代人材投資資金（経営開始型）の給付を受けている新規就農者11名の営農・経営状況の確認と共に、対象者に指導や助言を行うことが目的です。

コロナ禍で単価安の影響を受けたケースが多かった中、設備投資の負担が大きい施設ニラやミョウガの施設園芸品目に取り組む新規就農者が、各品目の部会組織の中で上位に位置する好成績をあげており、関係者も安堵していました。

また、昨年秋の大雨による浸水被害を受けた新規就農者は、「病気の発生に留意しながら昨年並みの収穫量を確保できるように頑張りたい」と話していました。

普及所は今後とも関係機関と協力して新規就農者の経営発展を支援していきます。

夏秋ピーマンの勉強会 ～夏秋ピーマン新規栽培講習会～



講習会の様子

2月18日、新たに栽培を開始する2戸を対象に、JA高知県四万十夏秋ピーマン部会新規栽培講習会を開催しました。

講習会では普及所から、夏秋ピーマンの栽培に必要な資材や、定植準備、定植後の管理方法に加え、ピーマンで問題となる病虫害など、幅広い分野を説明しました。生産者からは、肥料や資材、管理方法について、これまでの営農経験をふまえた具体的な質問が出されるなど、来年度からスタートする作に向け、有意義な講習会となりました。

普及所では、今後とも関係機関と連携し、夏秋ピーマンの生産振興に努めていきます。

トマト産地の継続のために ～黄化葉巻病対策勉強会の開催～



勉強会の様子

2月18日、次世代施設園芸団地の3法人を対象に、トマト黄化葉巻病対策勉強会を開催し、8名の参加がありました。

近年、トマト黄化葉巻病は全国的に被害が拡大しており、トマト産地を脅かしている重大な病害です。今年度、管内でも多くの被害が確認されたことから勉強会を開催しました。

普及所からは、今作の病害発生状況やトマト黄化葉巻病の概要、今後の対策技術について説明を行いました。参加者からは、「できる対策を確実にやるしかない」や「保毒虫を減らすための環境整備が重要だ」等の意見が挙がり、今後の対策に前向きな姿勢が見られました。

今後も普及所では、関係機関と連携して次世代施設園芸団地の支援を行っていきます。

GAPの取組みを始めましょう ～JA高知県四万十シシトウ研究会総会～



総会の様子

1月27日、JA高知県四万十シシトウ研究会総会が開催され、10名の参加があり、普及所からは高知県準拠GAPの説明と今年度の実証ほの結果報告を行いました。

昨年、農薬使用事故が発生しており、未然に発生を防止するために、次作から高知県準拠GAPに取り組むことになりましたが、生産者からは、「GAPって何？めんどくさい」といった意見があり、これからGAPの取組みについて、さらに意識啓発をしていく必要があると痛感しました。

今後も普及所では、関係機関と連携してシシトウ産地の振興に取り組んでいきます。

GAPを理解し、農作業安全を進めるために ～営農支援センター四万十（株）～



GAP指導の様子

2月4日、営農支援センター四万十（株）の役員、社員を対象に研修会を開催し、2名の参加がありました。

今回の研修会で普及所は講師を努め、GAP理解度アンケートを実施しました。特に食品安全、環境保全、労働安全について説明し、現地指導では、整理整頓や農機具個数の把握などから取り組みを始めるよう指導をしました。

代表取締役からは「これからは、事故を未然に防ぐためにもGAPに取り組まないといけない。」という意見があり、同社では新しくGAP担当者を配置し取り組んでいくこととなりました。

今後も普及所では、GAPの普及に向けて取り組んでいきます。